



各局による

高知医療センター

- ▶ 看護局
- ▶ 薬剤局
- ▶ 医療技術局
- ▶ 栄養局
- ▶ 事務局

クオリティ・インディケーター (QI) / クリニカル・インディケーター (CI)

看護局における『医療の質向上への取り組み』 看護局長 田鍋 雅子

看護局からはこれまでと同様6つの指標データを報告いたします。指標1の「各資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有するものを資格取得者として報告しました。今年からは、BLS・ICLS等のインストラクターに加え、当院の機能・役割として必要な急変時や災害時における患者対応と質の高い看護ができる看護師を育成するための資格として、ISLS/PSLS(脳卒中初期診療)ファシリテーター、KIDUKIコース(患者急変対応コース)ファシリテーター等、日本DMAT隊員、高知DMAT隊員についても報告内容として加えました。院内では、お示している資格取得者を中心に、看護の質を向上すべく様々な研修を行ない、看護師の育成にも注力しています。また、院外に向けては、認定看護師、専門看護師による30分~1時間以内の研修にはなりますが、平日時間内を主体に無料で講師派遣しております。詳しくは看護局のホームページをお訪ねください。

(<http://www2.khsc.or.jp/info/subtop.php?SID=2009>)

指標2は、一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えているといわれており、当院の看護師の質を反映する一つの指標と考え、経年的に比較しています。指標3は、やっと8.5%になりました。この数値は、平成28年度厚生

労働省衛生行政報告例の男性看護師構成比率7.3%を上回っています。『男性看護師にとって働きやすい職場』について、女性看護師達と一緒にディスカッションする時間を定期的に設け、男性看護師の定着に取り組んできた成果の表われと捉えており、男性看護師が増えることで、より幅広い看護の提供につながると考えています。指標4は、新人看護師研修の充実と病院全体で継続して新人看護師を育てていることの証であると考えます。近年の状況はばらつきが大きく、2年目・3年目の看護師の教育支援体制の更なる強化も必要と考えています。指標5は、退院支援に向けて多職種連携が定着していることが考えられます。指標6は、年々低下していますが、デスクンファレンスでは、1例1例のケースを大事にしながら取り組んでいます。カンファレンスによるチーム医療の推進、医療・ケアの質向上や家族及び職員のグリーフケアが行われたことによる効果に目を向けながら、カンファレンスを重ねていくことができるようにしたいと考えています。

2016年度からは、これまでの看護のチーム活動に加え、認定看護師や専門看護師を中心にスタッフナースによるリンクナース会を展開しています。これからも看護の質向上に向けた様々な取り組みを展開していきます。

看護局「看護の質」インディケーター 2016

指標番号	指標名称	H26	H27	H28	算出単位	分子/分母および備考				
看護1	各種専門領域認定資格取得者率(%)	20.5	18.9	19.3	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(H26年度は142/693人、H27年度は133/704人、H28年度は136/705人)				
	各種資格取得人数(人)		H26	H27	H28	各種資格取得人数(人)		H26	H27	H28
	がん看護専門看護師	3	3	3	消化器内視鏡技師	10	9	8		
	小児看護専門看護師	2	2	2	リンパ浮腫指導技能者	2	2	3		
	母性看護専門看護師	1	1	1	心臓リハビリテーション指導士	6	5	3		
	精神看護専門看護師	1	1	1	日本癌治療学会認定データマネージャ	2	1	1		
	皮膚排泄ケア認定看護師	3	3	3	栄養サポートチーム専門療法士	1	1	1		
	感染管理認定看護師	2	2	2	高知県臓器移植院内コーディネータ	3	3	3		
	集中ケア認定看護師	2	2	2	日本褥瘡学会認定師	1	1	1		
	救急看護認定看護師	3	3	2	日本口腔ケア学会4級認定者	2	1	1		
	不妊症看護認定看護師	1	1	2	AHA BLS インストラクター	4	1	1		
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1	ICLS インストラクター	7	6	8		
	脳卒中リハビリテーション認定看護師	1	1	1	ISLS/PSLS(脳卒中初期診療) ファシリテーター	1	1	1		
	小児救急看護認定看護師	1	1	1	JPTEC インストラクター	2	3	4		
	慢性呼吸疾患看護認定看護師	1	1	1	JNTEC インストラクター	1	1	1		
	手術看護認定看護師	1	1	1	JTAS(緊急度判定支援システム) インストラクター	1	1	1		
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1	1	1	KIDUKIコース(患者急変対応コース) ファシリテーター	1	1	1		
	日本看護協会認定看護管理者	4	6	6	日本DMAT隊員	10	10	9		
	第一種衛生管理者	4	4	4	高知DMAT隊員	6	6	6		
	医療安全管理者認定	2	2	2	高知県看護協会災害支援ナース	2	2	3		
日本糖尿病療養指導士	3	1	2	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	1	3	4			
インターベンションエキスパートナース	11	7	7	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	4	4	6			
呼吸療法士	24	24	24	アロマセラピー検定1級	3	3	3			
看護2	経験年数5年以上の看護師の占める割合(%)	71.8	71.7	74.0	年度	分子：経験年数5年以上の正規看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている				

看護局「看護の質」インディケーター 2016

指標番号	指標名称	H26	H27	H28	算出単位	分子/分母および備考
看護3	男性看護師割合(%)	7.8	7.5	8.5	年度	分子：正規男性看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する
看護4	新卒新人看護師3年定着率(%)	79.5	87.5	81.6	年度	分子：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考：臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルIIに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護5	多職種カンファレンス件数(件)	1,944	2,227	2,246	年度	分子：実施件数 分母：- 備考：チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する
看護6	デスカンファレンス実施率(%)	12.6	8.1	6.5	年度	分子：デスカンファレンス件数 分母：死亡退院患者数 備考：家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す

薬剤局における『医療の質向上への取り組み』 薬剤局長 宮本 典文

薬剤局では、安全で適正な薬物治療を支援するために、調剤業務や製剤業務に加えて薬剤師の常駐による病棟業務、がん化学療法安全管理、抗菌薬の適正使用への介入や専門的医療チームへの参加など、様々な業務を行っています。

表に平成28年度までの薬剤局のクリニカルインディケーターを示しました。薬剤管理指導業務とは、「入院患者の薬歴管理と服薬指導を介して患者の薬物療法への認識を向上させ、また患者から得られた情報を医師にフィードバックすることにより薬物療法を支援する業務である」と定義され、指標1と2は、件数と実施率から薬剤師の入院患者さんに対する薬物療法の支援状況を表しています。平成24年に診療報酬上でチーム医療を評価する加算として新設された病棟薬剤業務は、「医師等の負担軽減、薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤業務」であり、すべての入院患者の薬物療法を事前にチェックする「投薬前の患者に対する業務」と定義され、1病棟1薬剤師の配置が必要条件と規定されています。当薬剤局では現在薬剤師不足のため配置ができていません。しかし実施している病棟業務は、この病棟薬剤業務に準じる業務も行っています。平成28年度は、薬剤管理指導の実施件数は16,642件、実施率は80.6%と横ばいで推移しています。実施率100%と病棟薬剤業務を算定するためには薬剤師の確保が課題となっています。そして病棟業務では、病棟スタッフや患者さんからの相談を受

けたり、医薬品情報を提供することも重要な仕事です。指標3は、病棟でいかに薬剤師の業務が定着しているかを確認できる指標です。病棟スタッフからの相談、情報提供は、4,698件、平日1日当たり19.3件(平日243日)で、例年に比し減少していますが、28年度は多くの新人が病棟業務の担当を開始したことが影響したのかも知れません。

抗MRSA薬(MRSA: 薬剤耐性菌の代表格で多くの抗生物質に耐性を持つ黄色ブドウ球菌)は、TDM(薬物血中濃度モニタリング)による治療効果と副作用の発現についてエビデンスが確立されており、TDMの実施は抗MRSA薬適正使用のための重要な業務の一つです。指標4は、入院患者さんに使用された注射用抗MRSA薬(バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン)の血中濃度測定により薬剤師が解析し投与設計を行った割合を示したものです。平成28年度の実施率は83.5%であり、抗MRSA薬使用患者さんの100%に介入する必要があると考えています。

薬剤局では薬剤師の知識、スキルを高めるために、様々な研修や学会活動に積極的に参加しています。指標5に薬剤局の各種資格取得者数を挙げました。診療報酬算定上、資格取得者の在籍が必要なものもあり、今後も質の高い薬物療法を提供していくためにも資格取得者の拡大を推進していきたいと考えています。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター 2016

指標番号	指標名称	H26	H27	H28	算出単位	分子/分母および備考						
薬剤1	薬剤管理指導実施件数(件)	17,560	16,399	16,642	年度	分子：- 分母：- 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤2	薬剤管理指導実施率(%)	80.0	79.8	80.6	年度	分子：実施実患者数 分母：全入院実患者数 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤3	病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数(件)	7,050	6,395	4,698	年度	分子：病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数(件) 分母：- 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤4	抗MRSA薬のTDM実施率(%)	83.7	86.2	83.5	年度	分子：抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母：抗MRSA薬投与患者数 備考：抗MRSA薬の適正使用に関する指標						
薬剤5	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	18	21	21	年度	分子：- 分母：- 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する						
	各種資格取得人数(人)			H26	H27	H28	各種資格取得人数(人)			H26	H27	H28
	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師			5	7	7	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師			1	1	1
	日本医療薬学会認定薬剤師			0	2	2	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師			2	2	2
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師			3	3	3	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師			2	1	1
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師			2	2	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師			3	3	3	

医療技術局における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局次長 谷内 亮水

医療技術局では、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士、臨床工学技士の8職種が、自分たちが提供している医療技術が本当に質の高いものであるのかを客観的に評価するために平成23年度より安全とサービス、技術の3つの分野(4つの指標)で機能を数値化し継続的に公表してきましたが、平成28年度からは指標を変更し、行うことにしました。

下記の表には指標別に平成28年度のクリニカルインディケーターを提示しています。臨床検査技術部では、当院の基本理念に基づき患者さんおよび医療従事者に対して、安全で快適な医療環境を提供するため、全職員で感染防止対策に取り組んでいます。感染対策の基本である適切な場面での手指消毒と個人防護具(マスクや手袋など)の着用について、実施状況の指標のひとつに消費量チェックがあります。多くの患者さんに関わり、全フロアへ来室検査を実施する生理検査科を対象に手指消毒薬と手袋の消費量をクリニカルインディケーターとして取り上げることとしました。一方、血液管理科では平成28年4月より運用を開始した「輸血後感染症検査」の実施率をクリニカルインディケーターとし、向上に取り組めます。当院で輸血をされた患者さんについては、院内でのフォローだけでなく地域の他の医療機関からも検査結果を送っていただき、血液管理科でチェックし電子カルテへの取り込みを実施

しています。輸血後感染症早期発見のため、検査実施率向上に取り組めます。

リハ技術部では早期離床・廃用症候群の予防に向け、発症または術後早期より救命救急病棟を含むベットサイドにて超早期のリハビリテーションに取り組んでいます。また多くの診療科と連携を深める事で、入院患者さんの早期の社会復帰や、転院調整がスムーズに行えるように多職種とのチーム医療に参加しています。平成28年度からは救命救急病棟に専任の理学療法士を配置し、また平成29年度からは日曜日に2名体制を開始することで365日、切れ目の無いリハビリテーションに取り組んでいます。

医療機器を安全に使用するためには、まず医療機器を知ることが必要です。そのため臨床工学技術部では医療機器知識習得の指標として、院内の医療機器研修会の開催数を取り上げることとしました。この研修回数をクリニカルインディケーターとし、医療機器知識向上に取り組めます。

放射線技術部では放射線技術の専門性、多様性に対応するため専門技師の育成に力を入れています。特に各分野の学会、講演会を聴講するだけでなく学術発表や講演を自ら行い、レベルアップと技術の伝授に力を入れています。

本年度から6つの指標の数値データが増加するように取り組んでいきたいと考えています。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2016

指標番号	指標名称	H26	H27	H28	算出単位	分子/分母および備考
医技1	生理検査科における手指消毒薬使用量(本)	19	45	77	年度	分子：手指消毒薬の使用量 分母：— 備考：手指消毒薬は250mlを1本とする
医技2	生理検査科における手袋使用量(箱)	13	18	59	年度	分子：手袋の使用量 分母：— 備考：1箱250枚入とする
医技3	輸血後感染症検査実施率(%)	—	—	17.9	年度	分子：輸血後感染症検査実施数 分母：輸血患者数 備考：院外で実施された輸血後感染症検査を含む
医技4	入院患者におけるリハビリテーション実施率(%)	19.6	23.4	26.7	年度	分子：リハビリテーション実施患者数 分母：入院患者数
医技5	医療機器に関する研修開催数(回)	133	87	116	年度	分子：医療機器に関する研修開催数 分母：— 備考：メーカーによる研修を含む
医技6	放射線技術についての学会発表・講演の割合(回)	0.31	0.73	0.65	年度	分子：放射線技術に関する学会発表と講演回数 分母：放射線技師の職員数 備考：放射線技術の質が向上する

栄養局における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 山下 元司

栄養局では、全国に先駆けて開院時から各フロアに管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を実施してきました。この10年間で、栄養療法の重要性は、院内でも疾患治療の根幹だと認識され、各フロアの管理栄養士の必要性も当然のように認識されています。管理栄養士は、患者さんの治療経過と病状や臨床データを日々観察し、食事摂取量と共にモニタリング、アセ

メントを行い、適切な栄養介入を行っています。開設と同時に稼動してきたNST(栄養サポートチーム)の効果も得られています。更に、手術前後の食事の摂り方や、慢性疾患等の食事療法と、食生活改善についての栄養食事指導を積極的に行い、早期病気回復、健康維持につながるよう努めています。

■各種認定取得の指標

高知医療センターの基本目標「医療の質の向上」に基づき、栄養局では管理栄養士の各学会等の認定取得を指標としています。認定取得を推進するために、学会発表や研修会に参加できるよう支援をし、積極的に認定資格取得にチャレンジしています。

■栄養指導実施率の指標

管理栄養士が、医師の指示の下に行う栄養指導の実施率を

指標としています。管理栄養士は病状や、臨床検査データの推移を専門的な立場で評価し、栄養指導の必要性を医師に提案しています。栄養指導を実施することで、患者さんの治療意欲が高まり治療効果が期待でき、退院後の食生活習慣改善等にもつながります。

透析予防チーム(医師・看護師・管理栄養士)の指導では、HbA1c、eGFRの改善効果が得られていますので、今後の指標として検討が必要と考えています。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター2016

指標番号	指標名称	H26	H27	H28	算出単位	分子/分母および備考		
栄養 1	治療食加算対象患者に対する栄養指導実施率(%)	37.5	40.8	39.1	年度	分子：個人・集団栄養指導の実施件数 分母：治療食加算対象患者数 備考：平成28年度は2,262/5,788件		
	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	133.3	144.4	211.1	年度	分子：各種認定資格取得者数 分母：栄養局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する(H26年度は12/9人、H27年度は13/9人、H28年度は19/9人)		
栄養 2	各種資格取得人数(人)					H26	H27	H28
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					4	5	4
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)					2	2	2
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)					3	3	3
	日本病態栄養学会認定病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)					1	1	4
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					1	1	3
	医療安全管理者(日本病院会認定)					1	1	0
	日本病態栄養学会認定がん専門管理栄養士研修指導士					0	0	3

事務局における『医療の質向上への取り組み』

事務局長 浅野 忠

事務局では、「高知医療センター経営計画」を策定し「経営の健全化」に取り組むとともに、医療現場がその機能を十分に発揮できるよう、人的及び物的な環境の整備をしっかりと行うことにより、県民、市民から信頼される高度急性期病院として高水準の医療が安定して提供できるよう努めています。

人的環境整備として、診療情報管理士や医療情報技師、医療ソーシャルワーカー等の専門職を採用するとともに、医師事

務作業補助者(医療秘書)による診断書や証明書、情報提供書等の書類の作成、学会関係のデータ登録や調査の実施等、医師の事務作業を軽減し、医師がより多くの時間を患者さんに向き合うことができるよう、体制強化に取り組んでいます。

今後も、より良質な医療が安定して提供できるよう取組を進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター2016

指標番号	指標名称	H26	H27	H28	算出単位	分子/分母および備考		
事務 1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	50.0	54.5	53.6	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する(H26年度は27/54人、H27年度は33/55人、H28年度は30/56人)		
	各種資格取得人数(人)					H26	H27	H28
	診療情報管理士					9	10	10
	医療情報技師					4	5	4
	社会福祉士					10	10	10
事務 2	精神保健福祉士					4	5	6
	医師事務作業補助者(医療秘書)	29	45	45	年度	分子：－ 分母：－ 備考：医師の事務的業務を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する		